130 トッパンホールプレス
［Jul. 2024］隔月発行

TOPPAN HALL PRESS

ロナルド・ブラウティハム（2022.11.29）© 大窪道治

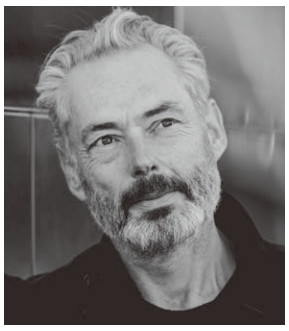
2024/2025 SEASON
世界の潮流を映す最新の感性
プレ25周年を彩る注目の企画群

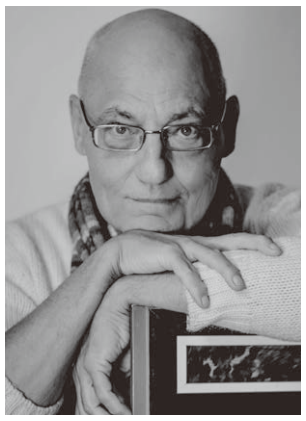
谷 昂登（ピアノ）＆水野優也（チェロ）
期待に震える思い　　梅津時比古

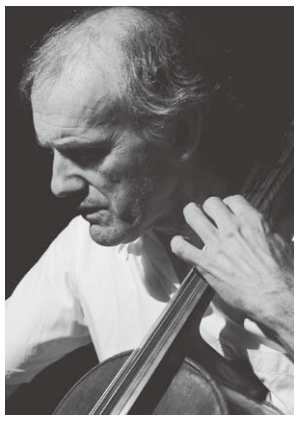
［ Schedule 2024.7～12 ］
［ Information ］
［ Review ］〈トッパンホールクラブ特別企画〉ペヌティエに愛をこめて…
ランチタイムコンサート Vol.129 サマースペシャル
［小川恭子、大塚百合菜（ヴァイオリン）／石原悠企（ヴィオラ）／築地杏里（チェロ）／北村明日人（ピアノ）］
ゼフィルス・ピアノ五重奏団

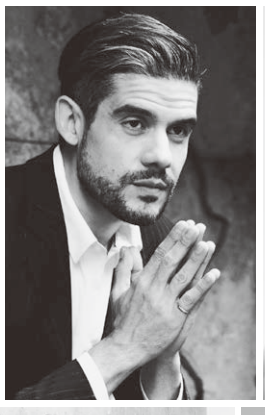
2024/2025 SEASON

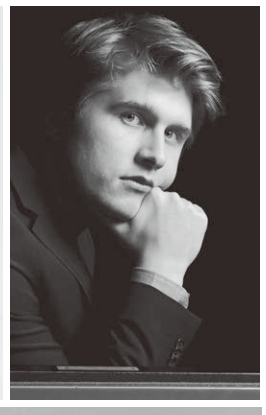
世界の潮流を映す最新の感性たち
プレ25周年を彩る注目の企画群











2000年10月1日のオープンから、あっという間に24年。バブル期後の冷え込みに誕生し、否応ないデジタル化の波や気候変動など、社会環境が激変するなかを歩んできたトッパンホール。既存の価値観が大きく揺らぎ、感性の世代差が広がるなかにおいても、一貫して人と音楽の力を信じ、その意義に根差した本物の芸術を、挑戦の気概のもとお届けしてまいりました。開館から四半世紀を控えるプレ25周年シーズンも、豊かな音楽の時間をみなさまと分かち合い、その果実が幸福に日々を満たすことを願って、一段と大きい熱量でステージをお届けしてまいります。

＊　＊　＊

2024/25シーズンのラインナップのなか、発表後からもっとも大きな反響が寄せられているのが、**パトリツィア・コパチンスカヤ**（vn）＆**カメラータ・ベルン**の2公演［12月］。2006年に初めてステージを踏んで以来、コパチンスカヤとトッパンホールの絆は深く、昨春のステージがまだ記憶に新しいなか、今度は、彼女とともにちょっと過激でスペシャルな活動を展開する、カメラータ・ベルンと戻ってきます。独創性に満ちたふたつのプログラムからは、両者の緊密な関係と火花散るパフォーマンスが透けて見えるよう。今回も、ノックアウト必至です。そしてその直後に登場する、**ジョヴァンニ・アントニーニ**率いる**イル・ジャルディーノ・アルモニコ**も大注目。革新的解釈者として作品に新たな息吹を吹き込むアントニーニが、魅力を再発見したと高評されるハイドンを軸にしたプログラムで、生命力あふれる躍動感が魅力のオケとともにその真髄を聴かせます。《悲しみ》とタイトルされてはいますが“ハイドンの交響曲ってこんなに面白いの!?”と驚くこと請け合いです。さらに2025年4月には、コロナ禍での2度の中止を経てついに、**フライブルク・バロック・オーケストラ**が**クリスティアン・ベザイデンホウト**（fp）とともに帰ってきます。

コパチンスカヤに負けず劣らず大きな話題と期待を集めているのが、**ベルチャ・クァルテット**と**エベーヌ弦楽四重奏団**、ふたつのクァルテットによる3公演［3月］。ハーゲン・クァルテットの次の世代として、現在世界最高峰の名をほしいままにする彼らが揃い踏みし、それぞれのコンサートに加え、両雄並びたっての八重奏を聴かせる3夜連続公演が実現します。なんだか夢のようですが…夢ではありません！ エベーヌQはトッパンホール初登場にして、ホールに縁深い**岡本侑也**（vc）加入後の、日本での初お披露目ステージ。ベルチャQは3度目の登場ですが、トッパンホールでは毎回ひと味違った演奏を聴かせて、その実力の底知れなさを示しています。弦楽四重奏を聴くには世界最高と自負するトッパンホールの音響空間で、伝説になるに違いない夢の3夜を、どうぞ心ゆくまでお楽しみください。

トッパンホールで鍵盤と言えばこの人、**アンドレアス・シュタイアー**（fp）が久しぶりに帰ってきます［10月］。今回は盟友、**ダニエル・ゼペック**（vn）、**ロエル・ディールティエンス**（vc）とのトリオを含んだ2公演で、いっそう進境深まる名手の現在地をご堪能いただきます。翌月には、孤高のライオンさながらに銀髪をなびかせて、**ロナルド・ブラウティハム**（fp）が登場［11月］。シュタイアーとはまったく異なる味わいで作品の地平を拓く異才が、前々回から続くハイドン=ベートーヴェン・プログラムで、またも胸躍るひとときへと誘います。2025年7月には、いよいよ恒例めいてきた**アレクサンドル・メルニコフ**（pf）が今度はショスタコーヴィチを聴かせるほか、前月6月には、昨今成長著しい**トマシュ・リッテル**（fp）が、コロナ禍の中止を経ていよいよ初登場します。

コロナ禍以降、ラインナップのなかでグッと存在感を増している、邦人アーティストを迎えてのオリジナル企画。2024/25シーズンの最初は、シーズン開幕コンサートでお楽しみいただきます。テーマをベートーヴェンに据え、その多様さを味わっていただくプログラムには、ヴァイオリンとチェロ、それぞれのソナタと歌曲作品が並びました。おなじみの**山根一仁**（vn）が**大井駿**（fp）とのデュオを聴かせるほか、**兼重稔宏**（pf）は相性抜群の**笹沼樹**（vc）に加え、世界的オペラ歌手にして昨今は歌曲にも表現世界を拡げる**大西宇宙**（Bar）との初共演でリート作品をお届けします。ベートーヴェンの新たな側面に光をあてる意欲企画に、ぜひご期待ください。11月には、今や日本のトップアーティストとして揺るぎない地位を築く**郷古廉**（vn）が、2022年に続き**ホセ・ガヤルド**（pf）と登場。2020年暮れの伝説の無伴奏がいまだ記憶に鮮烈ななか、この4月にはN響の第1コンサートマスターに就任し、ソロや室内楽の活動も積極的かつ継続的に展開。今回も旺盛な探究心を感じるプログラムで、勝負のステージを聴かせてくれそうです。そのほか、トッパンホール発の弦楽三重奏**Trio Rizzle**は2025年3月に、シリーズ2回目を迎える**クァルテット・インテグラ**は同8月に公演予定。アンサンブルの沼にはまり、尽きない情熱を注いで惜しみない彼らの、とどまるところを知らない成長もどうぞお楽しみに。

さらには、名物企画〈歌曲の森〉シリーズの初回を飾った**マーク・パドモア**（Ten）が久しぶりに帰還［10月］。成熟期にある日本の名手・**大萩康司**（gui）をパートナーに、母国イギリスの作品をめぐるプログラムを聴かせてくれます。慈しみ深く紡がれる、秋の優しいひとときにご期待ください。そして2025年5月には、**トーマス・ヘル**（pf）を迎えてのバルトーク・プロジェクトも企画中です。昨年大きな反響を巻き起こした、リゲティ・プロジェクト同様、聴きごたえ満点の内容でお届けします。詳細については続報をお待ちください。

秋からも、トッパンホールの冒険は続きます。みなさまにご一緒していただけるのを、楽しみにお待ちしております。

公演ラインナップ一覧

2024年

10/7（月）19:00 6/26発売
トッパンホール24周年
2024/25シーズン オープニングコンサート
ベートーヴェン―その多様さを聴く
山根一仁（ヴァイオリン）／笹沼 樹（チェロ）／大西宇宙（バリトン）
兼重稔宏（ピアノ）／大井 駿（フォルテピアノ）
ベートーヴェン：チェロ・ソナタ第4番 ハ長調 Op.102-1
：ヴァイオリン・ソナタ第1番 ニ長調 Op.12-1／第2番 イ長調 Op.12-2
：アデライーデ Op.46
：連作歌曲《遥かなる恋人に寄す》Op.98
：チェロ・ソナタ第3番 イ長調 Op.69

10/16（水）19:00 6/12発売
マーク・パドモア（テノール）＆**大萩康司**（ギター）
ダウランド：さわぎ立つ思いよ／もういちど帰っておいで、やさしい恋人よ／優しい森よ／あふれよ、わが涙
ブリテン：オペラ《グロリアーナ》Op.53より〈エセックス伯の第2リュート歌曲〉
アレック・ロス：《わがリュートと私》より〈Sometime I Sing〉
シューベルト：水の上で歌う D774／野ばら D257／《白鳥の歌》より〈セレナード〉D957-4／夜曲 D672／春のおもい D686
ブリテン：中国の歌 Op.58
スティーヴン・マクネフ：《エデン・ロック》より〈ある男〉〈エデン・ロック〉
アレック・ロス：チャイニーズ・ガーデン
イングランド民謡：スカボロー・フェア（ロス編）／恋人にリンゴを（ブリテン編）／ボニー・アット・モーン（ブリテン編）／キジバト（ロス編）

10/26（土）15:00 6/26発売
〈アンドレアス・シュタイアー プロジェクト 13〉
アンドレアス・シュタイアー（フォルテピアノ）＆
ダニエル・ゼペック（ヴァイオリン）＆**ロエル・ディールティエンス**（チェロ）
C.P.E.バッハ：ソナタ イ短調 Wq90-1（ヴァイオリンとチェロを伴ったクラヴィーア・ソナタ）
モーツァルト：ピアノ三重奏曲第6番 ハ長調 K548
ハイドン：ピアノ三重奏曲 変ホ長調 Hob.XV-29
ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第2番 ト長調 Op.1-2

10/28（月）19:00 6/26発売
〈アンドレアス・シュタイアー プロジェクト 14〉
アンドレアス・シュタイアー（フォルテピアノ）
モーツァルト：幻想曲 ハ短調 K475
C.P.E.バッハ：ピアノ・ソナタ ホ短調 Wq59-1
C.P.E.バッハ：幻想曲 ハ長調 Wq61-6
モーツァルト：ピアノ・ソナタ ヘ長調 K533+K494
ハイドン：アンダンテと変奏曲 ヘ短調 Hob.XVII-6
ベートーヴェン：6つのバガテル Op.126

11/11（月）19:00 6/12発売
ロナルド・ブラウティハム（フォルテピアノ）
ハイドン：ピアノ・ソナタ 変ロ長調 Hob.XVI-41
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第8番 ハ短調 Op.13《悲愴》
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第18番 変ホ長調 Op.31-3
ハイドン：ピアノ・ソナタ ト長調 Hob.XVI-40
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第12番 変イ長調 Op.26《葬送》
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第14番 幻想曲風ソナタ 嬰ハ短調 Op.27-2《月光》

11/20（水）19:00 8/28発売
郷古 廉（ヴァイオリン）＆**ホセ・ガヤルド**（ピアノ）
シューベルト：幻想曲 ハ長調 D934
ブゾーニ：ヴァイオリン・ソナタ第2番 ホ短調 Op.36a　ほか

パトリツィア・コパチンスカヤ（ヴァイオリン）＆
カメラータ・ベルン 8/7発売
12/7（土）17:00　《死と乙女》
ヴァイオリン独奏と弦楽オケのために、コパチンスカヤ自らが編曲したシューベルトの弦楽四重奏曲《死と乙女》に、16世紀から現代にわたる様々な作品を挿入して展開するライヴ・パフォーマンスをお贈りします。
12/9（月）19:00　《ベルンから愛をこめて》
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲　ニ短調
バルトーク：ルーマニア民俗舞曲 Sz68　ほか

12/13（金）19:00 8/28発売
ジョヴァンニ・アントニーニ指揮
イル・ジャルディーノ・アルモニコ
モーツァルト：ディヴェルティメント ニ長調 K136（125a）
ハイドン：交響曲第52番 ハ短調 Hob.I-52／第44番 ホ短調 Hob.I-44《悲しみ》　ほか

2025年

1月 10/9発売
トッパンホール ニューイヤーコンサート 2025
＊詳細調整中

3/10（月）19:00 10/9発売
Trio Rizzle Vol.4
毛利文香（ヴァイオリン）／田原綾子（ヴィオラ）／笹沼 樹（チェロ）
＊曲目調整中

3/26（水）19:00 11/21発売
エベーヌ弦楽四重奏団
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲
第1番 ヘ長調 Op.18-1／第13番 変ロ長調 Op.130+大フーガ 変ロ長調 Op.133　ほか

3/27（木）19:00 11/21発売
ベルチャ・クァルテット
シェーンベルク：弦楽四重奏曲第1番 ニ短調 Op.7
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第14番 嬰ハ短調 Op.131

3/28（金）19:00 11/21発売
ベルチャ・クァルテット×エベーヌ弦楽四重奏団
メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 Op.20
エネスク：弦楽八重奏曲 ハ長調 Op.7

フライブルク・バロック・オーケストラ with
クリスティアン・ベザイデンホウト（フォルテピアノ）
4/3（木）19:00
ハイドン：交響曲第74番 変ホ長調 Hob.I-74
モーツァルト：ピアノ協奏曲第9番 変ホ長調 K271《ジュノム》　ほか
4/5（土）18:00
モーツァルト：交響曲第29番 イ長調 K201（186a）
モーツァルト：ピアノ協奏曲第13番 ハ長調 K415（387b）　ほか

5月
トーマス・ヘル（ピアノ）　**バルトーク・プロジェクト**
山根一仁（ヴァイオリン）／谷口知聡（ピアノ）
竹原美歌、ルードヴィッグ・ニルソン（パーカッション）
バルトーク：ヴァイオリン・ソナタ第2番 Sz76／2台ピアノと打楽器のためのソナタ
リゲティ：ムジカ・リチェルカータ　ほか

6/25（水）19:00
トマシュ・リッテル（フォルテピアノ）
メンデルスゾーン：無言歌集より
ショパン：バラード全曲　ほか

7月
アレクサンドル・メルニコフ（ピアノ）
ショスタコーヴィチ：24の前奏曲とフーガ Op.87

8/5（火）19:00
クァルテット・インテグラ Ⅱ
＊曲目調整中

※各公演の詳細はオフィシャルWEBサイトにてご確認ください　2024年6月中旬現在

Beethoven & Brahms

期待に震える思い

梅津時比古

深さに分け入る力、それが演奏というものの、いちばんの魅力ではないだろうか。

往年の名演奏家が遺した録音を聴いてみると、けっこう間違っていたり、弾けていなかったりする。それは、「技術、テクニックより音楽だ」という言葉で整理されているけれども、テクニックがあると音楽が逃げてゆくのか、テクニックが無いほうが音楽により近づくのか、と言えば、そんなことは無い。

圧倒されるテクニックの持ち主で、素晴らしい音楽を聴かせてくれる人はいくらでもいる。一方で、とつとつとしたテクニックでも、豊かな音楽で感動させてくれる人もいる。つまりは、テクニックと音楽の相互の関係性は、あるように見えて、実際にはあまり関係は無いのである。

では、演奏の何が要素となって聴き手に訴え掛けてくるのだろうか？ それが、深さに分け入る力だと私は思っている。音、リズム、空間の把握など、ひとつひとつの要素は、そこから派生する。例えば、音。水野優也のチェロの音は、なぜかその音を聴いていると、ただそれだけで感動するほど、音に魅力が満ちている。だが決して、音としてそれだけで切り離されたものではないだろう。音楽として、深いところへ分け入っているからこそ、その音は人をひきつけてやまない。

水野優也は2020年に行われた第89回日本音楽コンクールで第1位を得たときにも、その音にほれぼれしたが、2021年9月に桐朋学園宗次ホールのオープニングシリーズで、ピアノの五十嵐薫子と共にラフマニノフのチェロ・ソナタを共演した際、それがあまりにも名演であったので、桐朋のホームページに是非、動画を載せてほしいと強く要望し、実現した。動画を通じて聴かれた方もいると思う。深く分け入った演奏である。

谷昂登は2019年の8月、ある賞の審査で初めて聴いた。最初にテープ審査で聴いた際、その音楽の深さから、かなり人生経験を経た人の演奏と勝手に想像していた。結局、亀井聖矢と二人が受賞したのだが、その後に谷昂登が16歳と聞いて度肝を抜かれた。どう考えても、16歳の演奏ではない。まさに大家と思えるほどの演奏なのである。名伯楽の西巻正史ディレクターがフライヤーに書いている通り、谷昂登はこれまで音楽に限らず、異なるジャンルなどにもさまざまにアプローチしているからこそ、年齢の若さにもかかわらず、音楽に深く分け入ってゆくことができるのだろう。その2年後、谷昂登は日本音楽コンクールに10代で1位となった。

トッパンホールは、独自の視点から優れた才能を私たちに紹介してくれる。純粋に経営的な視点にたてば難しいものでも、それが音楽界に必要とあれば果敢に挑戦している。長く続いている〈歌曲の森〉シリーズなどはその最たるものであろう。そこが信頼できるからこそ、コアな音楽ファンがホールに付いている。たとえば、ヨーロッパの若手で名前もよく知らない演奏家が登場するときがある。それでも、トッパンホールが選んだからには、何かの魅力があるのだろう、という一点にかけてコンサートへ行く。そして、それは驚異的な確率において“当たる”のである。

谷昂登もトッパンホールが早くから見出していた才能である。今回、ソロに加えて水野優也のチェロと共演する。この組み合わせの妙にも驚くほかは無い。二人とも現在、ドイツ語圏へ留学していることを考えれば自然に思えるが、ドイツ語圏で学んでいる日本の演奏家はいくらでもいる。そのなかでこの二人を組み合わせたことに驚かされるのである。それは二人が、他にはなかなか見られない、音楽に深く分け入る力において、傑出した若手だからである。もちろん二人ともに若手であるだけに、時には深く分け入ることができないこともあるだろう。だが、この魅力的なプログラムでは、必ずや名演が生まれるに違いない。

まず谷昂登のソロで、ベートーヴェン《幻想曲 ト短調 Op.77》と、ブラームス《パガニーニの主題による変奏曲 Op.35》。冒頭からベートーヴェンの深さに分け入って、ブラームスではテクニックを極めた上に浮かび上がるブラームスの抒情を聴かせてくれるだろう。休憩を挟んで、水野優也が登場。ベートーヴェン《魔笛の主題による7つの変奏曲 変ホ長調 WoO46》と、ブラームス《チェロ・ソナタ第1番 ホ短調 Op.38》。休憩前と後がベートーヴェンとブラームスという組み合わせの相似形である。まず、《魔笛》の変奏曲では、水野優也の音が徹底して楽しめるだろう。そしてブラームスのソナタ。この深さと優しさに満ちた曲が、今の二人によってどのように弾かれるか、期待に震える思いがする。

（うめづ・ときひこ／音楽評論家）

谷 昂登（ピアノ）＆**水野優也**（チェロ）
2024年8月20日（火）19：00
［谷 昂登］
ベートーヴェン：幻想曲 ト短調 Op.77
ブラームス：パガニーニの主題による変奏曲 Op.35
［水野優也＆谷 昂登］
ベートーヴェン：《魔笛》の主題による7つの変奏曲 変ホ長調 WoO46
ブラームス：チェロ・ソナタ第1番 ホ短調 Op.38
5,000円／U-25 2,500円　全席指定
特別協賛：清水建設株式会社

SCHEDULE 2024.7～12 主催公演

トッパンホールチケットセンター (10:00～18:00 土日祝休) 03-5840-2222

日時			公演
7／	19	(金) 19:00	**辻 彩奈**(ヴァイオリン)＆**阪田知樹**(ピアノ)　特別協賛：株式会社 竹中工務店
8／	8	(木) 19:00	**周防亮介**(ヴァイオリン)　**イザイ 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲**　特別協賛：東急建設株式会社
	20	(火) 19:00	**谷 昂登**(ピアノ)＆**水野優也**(チェロ)　特別協賛：清水建設株式会社
10／	7	(月) 19:00	トッパンホール24周年 **2024/25シーズン オープニングコンサート** **ベートーヴェン―その多様さを聴く** 山根一仁(ヴァイオリン)／笹沼 樹(チェロ)／大西宇宙(バリトン) 兼重稔宏(ピアノ)／大井 駿(フォルテピアノ)　特別協賛：株式会社 安藤・間
	16	(水) 19:00	**マーク・パドモア**(テノール)＆**大萩康司**(ギター)　特別協賛：清水建設株式会社
	26	(土) 15:00	〈アンドレアス・シュタイアー プロジェクト 13〉 **アンドレアス・シュタイアー**(フォルテピアノ)＆ **ダニエル・ゼペック**(ヴァイオリン)＆**ロエル・ディールティエンス**(チェロ)　特別協賛：株式会社 安藤・間
	28	(月) 19:00	〈アンドレアス・シュタイアー プロジェクト 14〉 **アンドレアス・シュタイアー**(フォルテピアノ)　特別協賛：株式会社 安藤・間

日時			公演
11／	11	(月) 19:00	**ロナルド・ブラウティハム**(フォルテピアノ)　特別協賛：清水建設株式会社
	20	(水) 19:00	**郷古 廉**(ヴァイオリン)＆**ホセ・ガヤルド**(ピアノ)
12／	7	(土) 17:00	**パトリツィア・コパチンスカヤ**(ヴァイオリン)＆**カメラータ・ベルン**
	9	(月) 19:00	
	13	(金) 19:00	**ジョヴァンニ・アントニーニ指揮** **イル・ジャルディーノ・アルモニコ**　特別協賛：株式会社 安藤・間
〈ランチタイムコンサート〉 トッパンホールが選んだ若手ホープによるミニ・コンサート　［全席指定］			
8／	2	(金) 12:15	**Vol.129　サマースペシャル** **小川恭子、大塚百合菜**(ヴァイオリン)／**石原悠企**(ヴィオラ) **築地杏里**(チェロ)／**北村明日人**(ピアノ)

※開場は開演の30分前となります。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。なお、全主催公演で託児サービスをご利用いただけます[有料・要予約]。
お申し込み・お問い合わせは(株)マザーズ 0120-788-222まで。

2024年6月中旬現在

最新情報はオフィシャルWEBサイトでご案内しています　※WEBチケットもご利用いただけます　www.toppanhall.com

INFORMATION

A

B

C

D

Review トッパンホールクラブ特別企画

ペヌティエに愛をこめて

E

F

G

H

Program

本堂竣哉 A
J.S.バッハ：トッカータ ニ長調 BWV912

藤平実来 B
シューベルト：3つのピアノ曲 D946より
第2番 変ホ長調／第3番 ハ長調

山縣美季 C
ショパン：ポロネーズ第7番 変イ長調 Op.61《幻想》

原嶋 唯／湯本亜美／渡邉ゆづき／柳瀬省太／笹沼 樹 D
モーツァルト：ピアノ協奏曲第12番 イ長調 K414より 第2、第3楽章
(作曲者自身の編曲によるピアノと弦楽四重奏版)

湯本亜美／渡邉ゆづき／柳瀬省太／笹沼 樹 E
モーツァルト：ディヴェルティメント ニ長調 K136 (125a)

有吉亮治 F
リスト：コンソレーション S172
第1番 ホ長調／第2番 ホ長調／第3番 変ニ長調
第4番 変ニ長調／第5番 ホ長調／第6番 嬰ハ短調

島田彩乃 G
ドビュッシー：前奏曲集第2巻より
第5曲 ヒースの茂る荒地／第8曲 オンディーヌ
第12曲 花火
ドビュッシー：喜びの島

永野英樹 H
リゲティ：ピアノのためのエチュード第2巻より〈ガラン・ボロン〉
ジョリヴェ：《マナ》より 第2曲 鳥／第4曲 牡山羊／第5曲 牡牛
フォーレ：夜想曲第6番 変ニ長調 Op.63

思わぬ怪我により来日を断念することとなったペヌティエを元気づけ、残念に思ってくださっているご来場予定のお客さまに喜びを届けたいと願い、コンサートで共演予定だった弦楽器奏者4名とマスタークラスに出演予定の若手、さらにトッパンゆかりのペヌティエの弟子3人に声をかけ、急遽、〈ペヌティエに愛をこめて…〉というコンサートを企画した。声がけをした全員が参加してくれた結果、7人のピアニストが競演するめずらしくも貴重な一夜となった。7人それぞれが日ごろより一段と濃く深い音楽を奏でた2時間45分のコンサートは、実に豊かな音楽に満ち、まるでペヌティエが会場にいるかのような温かく人間的な魅力あふれる時間になった。

冒頭を飾った、若きバッハ弾き本堂竣哉の異才ぶりに驚かされた方も多かったことだろう。また、このコンサートのためにドレスデンから駆けつけてくれた湯本亜美率いる4人の弦楽器奏者が加わったモーツァルトのピアノ協奏曲（独奏：原嶋唯）もとても味わい深かった。ペヌティエが彼らと共演していたらどんな音楽が生まれていたのだろうかと、思いを馳せながら聴いていたお客さまも多かったのでは…。ペヌティエの弟子である有吉亮治、島田彩乃、永野英樹はさすがの貫禄。それぞれがペヌティエのある側面を強く受け継いでいると感じさせ、それぞれの持ち味を印象づけた。改めて参加してくれたアーティストの皆さまに感謝と敬意を伝えたい。

最後に肝心のペヌティエ氏の最新情報をお伝えしよう。このコンサートの映像をペヌティエにお送りしたところ、次のような返信が届いた。

「ギプスを付けた状態で1か月、その後、さらにひと月のリハビリを経て、いま6月中旬のリサイタルでの復帰をめざし準備をしています」

なんとも嬉しい、そして驚くべき回復力！ とても82歳とは思えない気力と体力。またいつか彼の雄姿をトッパンホールで見られることを心より願っている。

（西巻正史／プログラミング・ディレクター）

＊コンサートの模様は、トッパンホール公式YouTubeチャンネルで公開予定

シューマン室内楽の人気曲に、若き精鋭が挑む！

数多の才能のなかから、トッパンホールが期待を寄せる若き逸材の真剣勝負のステージをお届けしている〈ランチタイムコンサート〉。8月は夏の特別企画「サマースペシャル」をお届けします。シューマンの室内楽作品のなかでも人気の高い《ピアノ五重奏曲 変ホ長調》と、ブラームス最晩年の名作《ピアノのための6つの小品》に挑むのは、シリーズ出演歴のある小川恭子、大塚百合菜、北村明日人に、アンサンブルを熟知する元クァルテット・インテグラの築地杏里、この4月から読売日本交響楽団で契約団員として首席第2ヴァイオリン奏者を務める石原悠企の5人。トッパンホール初登場の石原は、ヴィオラで出演します。若き精鋭の瑞々しい感性で紐解かれる、ブラームス＆シューマン――濃密なアンサンブルに、どうぞご期待ください。

〈ランチタイムコンサート Vol.129〉
サマースペシャル
2024年8月2日(金) 12:15
小川恭子、大塚百合菜(ヴァイオリン)
石原悠企(ヴィオラ)／築地杏里(チェロ)
北村明日人(ピアノ)
ブラームス：ピアノのための6つの小品 Op.118
シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op.44
1,500円　全席指定
※スペシャル企画につき、有料とさせていただきます。
※お一人様2席まで
※トッパンホールクラブ会員無料(要予約)
発売日：6月27日(木)［会員：6月20日(木)］

ゼフィルス旋風巻き起こす、挑戦のステージ

日独で活躍する若き才能が集結する、ゼフィルス・ピアノ五重奏団。個々の活動も目覚ましいなか、定期的に集まっては演奏会を重ねています。互いを信頼し尊重し合いながら、大きく心を動かし、まったく違う個性だからこそ刺激し合い補い合う彼らの音楽は、室内楽の醍醐味そのものと言えるでしょう。

定期演奏会5回目となる今回のテーマは「混沌と創造」。20世紀の混沌を生きたショスタコーヴィチとシュニトケ、そしてモーツァルトの創造の源泉へとご案内します。2018年の結成から6年経ったいまもなお、リハーサルはとても新鮮なものだと語る兼重稔宏を中心に、ピアノ五重奏曲の「音や響きの永遠性」を丁寧に掬い上げようと、現在、繊細かつ新たなチャレンジを重ねているところ。豊穣をもたらす西風の神“ゼフィルス”の名を冠した彼らの、豊かな音楽の風吹く注目のステージに、どうぞご期待ください。

ゼフィルス・ピアノ五重奏団
第5回定期演奏会
―混沌と創造―
2024年7月21日(日) 14:00
尾池亜美、山田麻実(ヴァイオリン)／湯本亜美(ヴィオラ)
森山涼介(チェロ)／兼重稔宏(ピアノ)
シュニトケ：ショスタコーヴィチ追悼の前奏曲
シュニトケ：2つのヴァイオリンのための《Moz-Art》
モーツァルト：ピアノ三重奏曲 ト長調 K564
シュニトケ：ピアノ五重奏曲
ショスタコーヴィチ：ピアノ五重奏曲 ト短調 Op.57
全席自由：4,000円／学生2,000円
主催・お問い合わせ：ゼフィルス・ピアノ五重奏団
050-6864-4752
チケットのお申し込み：トッパンホールチケットセンター

表紙：ロナルド・ブラウティハム

「キング・オブ・ザ・フォルテピアノ」と評される稀代の名手が、ピリオド楽器2台を弾き分けたスペシャルなステージより。トレードマークの銀髪を振り乱し、眼光鋭く作品の本質を抉り出した贅沢かつ貴重な一夜となりました。次回は11月、ハイドン＆ベートーヴェンで帰ってきます。楽聖の人気曲が並ぶプログラムに、またしても聴き逃せない特別なひとときになりそうです。

編集後記

いよいよ2023/24シーズンも残すところわずかとなってきました。今シーズンの締めくくりは谷昂登＆水野優也公演。トッパンが引き合わせた二人が、当日どのような化学反応を聴かせてくれるのか…。いまからワクワク、ドキドキです！ 今号は本公演について、梅津時比古さんにご寄稿いただきました。二人に寄せる期待感がひしひしと伝わってくる内容となっています。そして公式YouTubeでは、2022年4月の谷昂登のリサイタルから、シューマン《幻想曲》とリストのソナタを期間限定で配信しています。ぜひ記事とYouTube、あわせてチェックしてくださいね。（雪）

発行日：2024年7月1日　発行・編集：株式会社トッパンホール 広報部　〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3　(03)5840-2200　https://www.toppanhall.com/　制作：株式会社トッパングラフィックコミュニケーションズ　印刷：TOPPAN株式会社
©TOPPAN HALL 2024.7 KI
※当紙に掲載している内容について、許可なく複製あるいは転用することを固く禁じます。